仙台教区報

カトリック仙台司教区本部事務局
〒980
仙台市青葉区本町1丁目2番12号
☎ 022（222）7371
FAX 022（222）7378
編集・発行　板垣　勤

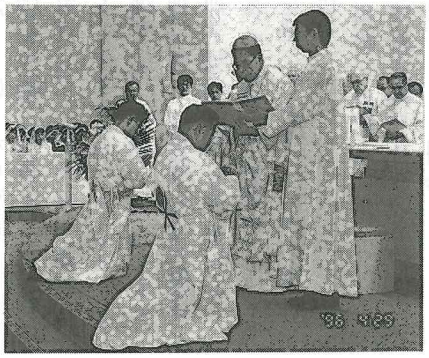
二人の司祭誕生
教区に新たな恵み

好天に恵まれた4月29日、仙台教区に教区司祭が二人誕生した。連休と重なった叙階式は教区の内外から約七百人の司祭、信徒が集まり、仙台司教区センター聖堂は参列者が外にまであふれた。参列者には奄美大島から訪れた人もあり、司祭が誕生するために多くの人が祈り、支えていることを思い起こさせられた。

この日を待ち望んでいた多くの信徒、とりわけ新司祭の家族に喜び、感動している姿が見られた。和野神父の家族の席には、我が子の中から聖職者が誕生することを願って祈り続け、今は神のもとに帰った父君の遺影が目を引いていた。

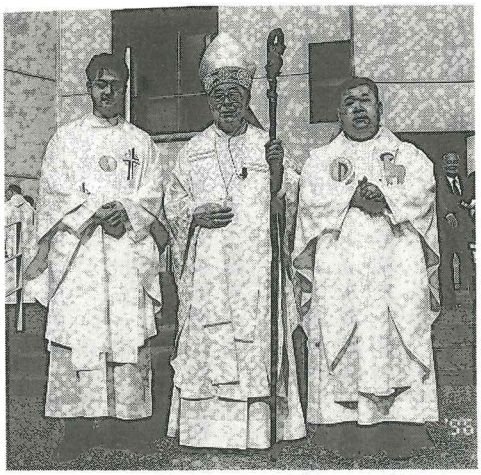
今年、東京カトリック神学院を卒業して司祭に叙階された人たちは、神学生養成が新制度になって最初の卒業生である。昨年までは司祭叙階のために大学卒業資格が必要であったが、新制度によって神学生養成の窓口が広げられた。この制度は青少年が司祭召命に応える道が身近になったことを意味し、司祭職を考える若者に希望を与えている。

しかし一方、日本の教会は司祭の高齢化と減少が切実な問題となっている現実を忘れることはできない。仙台教区ではこの問題に対して、司祭召命活動（旧一粒会）を軸に、信徒の召命意識を育てる新たな動きを始めている。



幸いに、教区内では召命を考えようとする信徒の動き、種々の活動に関心を持っている人がかなり見受けられる。

教区では、「仙台教区に司祭召命を願う祈り」を続けることが次の司祭の誕生に結びつくことを信じて、信徒一人ひとりが祈りと召命促進運動に積極的に関わることを願っている。



司教とともに、和野神父（左）、小松神父（右）

新司祭のことば

○小松　史朗（会津地区・会津若松教会）

叙階式には、たくさんの方々が私たちのために共に祈り、お祝いしてくださいまして本当にありがとうございました。

司祭としての抱負は、まだ自分に何が出来るのかよく分からないし、何とも言えないのが本音です。ただ一つだけ司祭として生きていく上で大切にしたいのは「人が生きている」ことに真っ直ぐに関わりたいということです。イエス様がそうであったように・・・・。

どんな人間でも母親から生まれます。どんな環境でも人間は成長します。どんな暮しをしても必ず人間は死にます。しかし、どんな人間でも望むならば永遠の生命に結ばれます。この人間の単純な生の営みに様々な出来事を用意して色付けしてくださるのが父である神様です。神様が与えてくださる出来事を正直に受け止め、神の国の建設のために皆さんと一緒に歩んで参りたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

○和野　信彦（弘前教会）

多くの皆様の祈りに支えられて、私たちは司祭叙階の恵みを受けることができました。

振り返れば神学生としての六年間を通して司祭職への召命を深めることができましたのは、私自身の力ではなく多くの方々が祈りと援助を通して支えてくださったおかげと感じております。本当にありがとうございました。

また、仙台教区で働いている司祭の方が、これから共に働く仲間として受け入れてくださったことに心から感謝しております。これからも皆様ご指導をよろしくお願いいたします。

教区神学生　紹介

仙台教区に神学生二人が誕生し、東京カトリック神学院に入学しました。二人は今年那須「ガリラヤの家」で初年度養成過程を過ごします。二人の神学生のためお祈りください。

○ヨゼフ　川崎　忠紀（かわさき　ただのり）
（浪打教会出身・29歳）

○ベルナルド　木村　国基（きむら　くにもと）
（塩釜教会出身・24歳）

司祭人事

（96年4月1日付）

《教区司祭》

梅津　明生　北上教会（療養休暇）
渡辺　昭一　宮城県南地区・大河原教会
笹氣　直哉　石巻教会（療養休暇）
土井　文雄　八戸塩町教会
佐藤　守也　鮫町教会（兼任）
一関教会、千厩教会
三浦　平三　水沢教会（兼任）
気仙沼教会
田茂木［巡］（兼任）

《グアダルペ会》

ホワンSMララ　白河教会
須賀川教会（兼任）
マルコADLロサ　会津・喜多方教会（須賀川教会）

《ケベック会》

GランドルヴィルA　宣教会本部付（鮫町教会）
ラシャペル　塩釜教会（宣教会本部付）
JLデュメン　五所川原教会兼任を解く
Mベランジェ　弘前教会
五所川原教会（兼任）

《ベトレヘム会》

Aツーゲル　上堂教会、花巻教会（兼任）
Mバウマン　宣教会本部付（北上教会）

《休暇・一年》

村首ステファノ　（宮城県南・大河原教会）
平田　浩　（水沢教会）
平賀　徹夫　（カトリック新聞社）

《引　退》（3月31日付）

深沢守三　司祭の家（塩釜教会）

金祝おめでとう

ヨハネ・シュルテンベルゲル神父（ベトレヘム宣教会）は、4月14日に司祭叙階五十周年を迎えました。2月に病気で倒れ盛岡の病院でリハビリ中です。お祈りを！

仙台司教区統計　(1995.1.1～12.31)

面　積　45,947.34Km² (青森・岩手・宮城・福島)
総人口　7,360,623人
信徒数　12,040人 (滞日外国人は未算入)

		青森	岩手	宮城	福島	教区外	合計
教会		12	14	17	14		57
巡回教会		2	2	3	4		11
集会所		2			1		4
信徒数	男	824	685	1,563	1,132	10	4,280
	女	1,505	1,239	2,862	1,848		7,760
	計	2,329	1,924	4,425	2,980	10	12,040
秘跡	洗礼(幼児)	20	13	48	29		110
	〃 (成人)	15	18	53	35		121
	堅信	53	14	68	76		211
	結婚 信徒同士	1	1	5	3		10
	信徒、他キリスト者			2			2
	信徒、他宗教者	6	15	27	18		66
	他宗教者同士	41	142	82	38		303

司祭不定住教会 (12)
五所川原
釜石
千厩
花巻
角田
畳屋丁
西仙台
東仙台
亘理
田島
勿来
原町

共同司牧地区　3　仙台中央 (元寺小路、一本杉、畳屋丁、西仙台、東仙台)
宮城県南 (大河原、角田、白石、亘理)
会津 (会津若松、喜多方、田島)

教区司教、司祭

司教	2人
司祭	30人
神学生	2人

宣教会、修道会司祭

外国人司祭	35人
〃 神学生	3人

修道者

邦人修道士	2人
外国人 〃	2人
邦人修道女	279人
外国人 〃	24人
修錬者等	3人

教会学校、要理、聖書研究

	男	女	計
幼児、小学生	271人	385人	656人
中学生	79人	83人	162人
高校生以上	144人	453人	597人

一般事業

センター・会館	4	31,010人
学生寮	1	7人
音楽教室、他	2	2,448人

教育事業

短期大学	3	1,690人
高等学校	8	6,544人
中学校	6	1,479人
小学校	8	2,227人
幼稚園	51	7,489人

社会事業

病院	1	132ベット
診療所	1	4,500人
老人ホーム	5	301人
精薄児・者施設	3	94人
養護施設	5	307人

司祭大会「宣言文」の 解説文が発表される

昨年の司祭大会で宣言文が発表されてから、その内容が簡潔すぎて何を言おうとしているのか分からないとの声が各地から聞こえていました。

司祭評議会でも、大会終了直後から同じことが話題になり、宣言文を解説する文書を発表することを決め、4月に発表しました。

この解説文は、司祭団が「教区が近い将来直面する厳しい現実に対し、信徒・修道者とともに教会の使命を果たすため（宣言文 前文）」、教区の宣教司牧の活性化を考え、具体化する材料として使うことを願って配布されました。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

宣言文の「解 説」

1996年4月23日
仙台教区司祭評議会

Ⅰ　宣教司牧の在り方の一つとして「共同宣教司牧」を推進する

宣教司牧形態の一つとして「共同宣教司牧」は、仙台教区をはじめ他の教区においても既に実施されています。しかし、「共同宣教司牧」という言葉を用いながらも、司祭の任命方法や共同宣教司牧地域の設定などについての考え方は様々であり、決して統一的な意味内容をもっているわけではありません。仙台教区で推進しようとしている「共同宣教司牧」とはどのようなものでしょうか。

1．「共同宣教司牧」という言葉について、司祭大会の話し合いでもその意味内容に関して共通理解に達したとは決していえない状況がありました。すなわち「司祭・修道者・信徒がともに力を合わせて」宣教司牧を進めていくのが「共同宣教司牧」であるという理解もありましたし、チームとしての司祭の協力態勢こそが「共同宣教司牧」であるという理解もありました。

2．仙台教区において実施されている宣教司牧地区を見ると、第一に、司祭派遣の在り方は、従来の一司祭一教会担当あるいは一司祭複数教会担当という形式と同じではありません。第二に、司祭と信徒が役割を担い合って宣教司牧を進めていく協力態勢の確立に力点が置かれています。

このことについて、96年の「年頭司教書簡」は明白に語っています。その要点を箇条書きにすると、次のようになります。

(a) 地理的に、生活圏を同じくする複数の小教区の信徒が、その地域の住民全体に対して福音を宣べ伝えてゆくことが私たちの福音宣教です。

(b) 地域に複数の担当司祭が派遣され、信徒とも相談し、協力・手分けして共同宣教司牧に従事する。

(c) 司祭数が足りないからというよりも教会の本来の在り方を実現してゆくことを根本理念とする。

3．この「年頭司教書簡」に示される「共同宣教司牧」のとらえ方には「教会が近い将来直面する厳しい現実」という認識があります。その意味で今後の宣教司牧を考える場合、予想される司祭数の減少という事態を真剣に受けとめねばなりません。しかし、「共同宣教司牧」は司祭数の減少に対応するための場当たり的、応急処置的な対応策ではありません。

大切なのは、宣教に従事するのは司祭だけではないことを信徒一人ひとりが自覚して、それぞれの生活の場で信仰によって生き生きと生きることです。それにより直接間接に周囲の人々を救い主イエスとの交わりへと招き入れることができるでしょう。私たち・教会はその生きる姿によって福音宣教の使命を果たすことになるのです。その意味で「教会の本来の在り方を実現していくことを根本理念とする」と表現されています。

4．司祭団はこの理念の実現を目指すにあたり、教会の中に宣教司牧に関する多様な考え方と実践形態があることを受けとめ可能な限り宣教司牧形態の一つである「共

同宣教司牧」を推進していくことを宣言しました。この歩みは今までの実践の反省と見直しのもと、長期的な展望に立って司祭と信徒が力を合わせて根気よく進める必要があります。

Ⅱ－(1) 地域に根差した信仰共同体を育成する

この課題は諸外国で行なわれている「基礎共同体（Basic Christian Community）」に学び、仙台教区でも信仰に基づく共同体の実現を探り、生き生きした信仰共同体造りを進めていこうとするものです。具体的には、地域の信徒が互いに支え合い、信仰を日常生活において結実させていくこと、すなわち、身近かに住む信徒が互いの交流と助け合いによって信仰面で成長し、日常生活の中で社会に福音を伝えていく信仰共同体を育てようということです。

Ⅱ－(2) 信徒奉仕者の養成と積極的な任用

あらためて説明するまでもないことかもしれませんが、この課題は司祭が減少するから教会の仕事を信徒に任せるという発想によるものではありません。むしろ、教会運営に信徒が積極的に関わることを促し、司祭を含む信徒全員がそれぞれ自分の役割を担い、教会を一層活性化していくことが目指されています。

信徒の役割には教区内で既に活動している「特別聖体奉仕者」、「司祭不在の主日の祭儀司式者」も含まれますが、他に教会事務・教会管理・要理教育などの様々な分野での奉仕があります。

司祭団はこれからの教区の在り方を考えて、教会で信徒が持つ能力を生かすことが大事になることを認めます。そのために、教会の種々の役割を果す信徒を養成し、積極的に任用する必要性を受けとめました。

Ⅱ－(3) 小教区の枠を越えて働く司祭の派遣

ここで目指されているのは、既存の小教区を中心とする宣教司牧態勢では対応しきれていない分野が現代社会にあることを認め、今後そのような分野で司祭の新たな働きを展開していこうということです。すなわち、ある司祭は小教区へ任命しないで、黙想指導・人権活動・社会福祉活動などの特定分野での働きを、小教区の枠を越えて行なえるようにするというものです。

これにより、今まで十分に対応できなかった分野での宣教司牧態勢が整えられ、教区の宣教司牧がより充実してゆくことが考えられています。

Ⅲ－(1) 小教区を越えた青少年の育成

教区の各地から単独の小教区では青少年が少なく、青少年に関わる活動ができないという声が上がっていました。このことから、既にある地域では小教区の枠を越えた青少年の交流、活動が行なわれてきています。青少年育成活動が今後より活発になっていくためには、小教区の枠を越えた地域の司祭、信徒の共通理解のもと、その活動を活発にする必要があります。

Ⅲ－(2) 召命活動

召命活動は、司祭召命活動を中心に引き続き展開されます。しかし、召命活動は司祭召命のみならず修道者召命、職業召命、結婚召命というように幅広く受けとめて考えていく必要があるでしょう。これから青少年の育成と関連させながら、召命についての信徒の意識を育てるよう積極的に取り組むことになります。

Ⅲ－(3) 近隣司祭の交流

近隣司祭の交流は司祭評議会の呼びかけで3年前から行なわれています。これはまず近隣小教区の司祭同志が交流を深め、小教区間の協力態勢の基盤造りを目指そうとするものです。これによって、折に触れて信徒から指摘される「司祭間の不一致」を克服するとともに、司祭相互の協力関係が緊密になることを願っています。

朗読劇「愛の侵略」から学んだこと

荒賀　久仁夫（野田町教会）

創立40周年を迎えた福島市の桜の聖母短期大学では、昨秋に記念行事の一つとして朗読劇「愛の侵略～マザーテレサとシスターたち」を教職員・学生などで上演した。学内新設の「マリアンホール」での公演は市民・学生などでほぼ満席であった。

この劇は、名古屋の南山短期大学教授で著名な演劇指導者でもある竹内敏晴氏が、自分の大学で教職員・学生が演じるために書いたもので、長年マザーテレサとシスターたちを撮り続けている沖守弘氏の写真をスライドで写しながら、その前の舞台で出演者が様々なエピソードを演じ、マザーの半生をたどる、というものである。

劇の中で歌われるいくつかの歌は、信者にとっては馴染みのカトリック聖歌で、しかも効果的な場面でそれらが歌われることにより、普段なにげなく歌っている歌に改めて深い意味を感じさせる。加えて数々の聖書の言葉や聖フランシスコの平和の祈りなどがせりふの中で用いられ、マザー本人の言葉も随所に紹介されるなど、見る側・演じる側の信仰を新たにする機会も与えてくれる。フィナーレで「キリストに呼ばれているのは、マザーテレサだけではない」と結ばれ、出演者全員が「大波のように」を大合唱して幕が下りる。作者の竹内氏は周囲の人から、これは一種の信仰告白だ、と言われたそうだ。

しかも「朗読劇」という触れ込みにもかかわらず、竹内演出では力の限りの体当たり演技の連続で、迫真のシーンが展開され観る者を灼熱のカルカッタへと引き込む。

だが出演する短大の学生・教職員・有志は、半年ほど前から練習を始めたものの、ほとんどが演劇未経験者であり、作者も名古屋からではそう頻繁に福島に来れないために演出もままならない、という壁に直面した。しかし地元で劇団を主宰する佐藤輝夫氏という協力者が現れ、舞台監督として毎日の練習を指導してくださった。カトリックの世界とは無縁だった佐藤氏だが、作者の演出の意図を推測しつつ初歩から演劇を教えてくださったおかげでこの劇が要求する表現に辛うじて近付くことができた。

しかし、何と言っても私が驚いたのは、これだけカトリック臭い、宗教臭い劇でありながら出演者のほとんどの学生はもちろん有志の市民も、カトリック信者ではなかった、ということである。マザーテレサがいかに宗教の枠を越えて多くの人々に知られ、尊敬されているかということの現れ、と考えることもできる。が、この人たちと共に練習の中で何百回となく歌った「大波のように」は、どんなミサの中でも聞いたことがない力強いものだった。白いサリーを着た清楚なシスター役の学生たちが歌う「小さなひとびとの」などからは澄んだ音色の中に深いメッセージが伝ってきた。それらは既に十分「祈り」であった。

竹内氏はこの脚本を書き始めた頃に「マザーテレサという一人の女性の、人間としての、個性としての、素晴らしさその軌跡を描くのではない。彼女において働き給う神の御姿を見るのだ」と考えたそうだ。だが、公演を成功のうちに終えた今、それに付け加えて私は言いたい。カトリック信者ではない出演者たちや舞台監督を通して働き給うた神の御姿を見た、と。本人たちがどう考えようと、確実にこの人人は神の福音を伝える道具として選ばれ、立派にその役目を果たしたのだ。「福音宣教」とは実にこのことではないだろうか。

この劇が与える感動は、通りいっぺんの感動ではない。自らの存在を揺さぶられ、それまでの生き方を問い直されるような呼びかけである。飽食の国での贅沢な生活の中で、つい忘れてしまいがちなことに心を引き戻させる。このままでいいのか、と自問してしまう。「呼ばれているのは彼女だけではない」というせりふが、殺し文句のようにいつまでも耳から離れない。そのような劇を、小さな町でのたった二回の公演で終わらせてしまうのは、もったいないと思っているのは、私だけであるまい。

司牧評議会 定例会議報告

司牧評議会定例会議が3月20日に開かれ二つの議案が審議された。

第一議題は「教区人権福祉委員会の再生について」。教区人権福祉委員会は当初宣教司牧の活動部門として91年4月に設立されたが、種々の困難な事情を抱えて活動が行き詰まっていた。しかし、委員会を開店休業状態のままにしておくことは、委員会設置の意図に反するので、その再生を図ることになった。

話し合いは、はじめに委員会の設置目的が確認された。つぎに委員会の役割として①人権福祉問題に関わる研修の推進及び文書等による啓蒙、②教区内の人権福祉関連諸団体・グループ間の連絡・調整及び支援するのであり、委員会自らが具体的に動くのではないことを再確認した。

委員会再生を左右する鍵は委員の人選にあるとする意見により、①団体などの利害代表者でない人、②人権福祉を神学的に明確に説明できる司祭、③司教直任委員は人権福祉のエキスパートを考慮する、との要望がまとめられた。この後、第一議題は賛成多数で提案どおり承認された。

なお人権福祉委員の人選は司牧評議会役員会で検討され、まもなく佐藤司教が任命する予定である。

第二議案は「仙台教区、司祭召命の日、新設について」。これは司祭召命活動の中から出たもので、特定の日を仙台教区の司祭召命の日としたいとするものである。

審議では召命に関連する特定の日はすでに教会暦にあるから、教区独自に新設するまでもないとの意見が多かった。議案は当日欠席の佐藤司教に最終的な決定を委ねることにして決定は先送りされた。

定例会議後に佐藤司教は報告を受けて、仙台教区司祭召命の日を新設しないと決定した。

報告事項は6件あったが、ここでは教会共済基金検討委員会の動きを伝える。

同委員会は小教区に「教会共済基金」に関するアンケートを2回出し、基金設立と運営の具体策を検討してきた。現在は9月の司牧評議会定例会議に答申するための作業を進めている。

JCNA全国大会　案内

日本カトリック看護協会は9月14日から15日まで姫路市で全国大会を開催する。テーマは「病人を持つ家族を支える看護」－共に生き、共に苦しみ、共に痛みを分かち合う－。看護に携っている方、テーマに関心のある方はぜひ参加を。　問合先　スペルマン病院　JCNA仙台支部

「寿庵の道」が完成

水沢市では建設省のマイロード事業により、寿庵廟に続く同市福原小路を「寿庵の道」と命名して整備した。完成した道路は水沢市と関係が深いキリシタン領主、後藤寿庵にちなんで欧風に仕立てられた。行灯型の街路灯やポケットパークが設置された道路は、石畳風のカラー舗装歩道で延長六百八十メートルある。近所の駐車スペースは大型車二台、普通車二十四台分あり、トイレも併設されている。事業の完成を祝って水沢市は5月26日の春の寿庵祭に落成式を行なった。

後藤寿庵と福原小路

後藤寿庵は伊達政宗の家臣で、当時禁止されていたキリシタン。寿庵廟は居館があった場所。付近一帯を福原と呼び家臣たちも住んだ。「寿安堰」を建設した地域開発の祖として有名。

◎　仙塩地区の信徒の動き　◎

仙塩地区壮年連盟は時代の変化に沿った活動を目指し、昭和三十八年設立以来、はじめて連盟の運営を見直した。見直しの要点は連盟規約の改正。これにより会長と事務局は8教会の輪番制となり、会員の意識が高揚されて連盟の活性化が図られた。

「信徒会長の集い」開かれる

仙台教区初の試みである信徒会長の集いが司教区センターで2月12日に開かれた。

この集いは佐藤司教が長年心に暖めてきたもので、開会の挨拶で「司教とともに、信徒会長の皆さんが交流を深め互いに励まし合うことが集いの目的だから、堅苦しく考えないでほしい」と語った。

各地の信徒会長、小教区の代表者51人が出席した集いは、教区本部による3件の教区現状報告から始められた。

①仙台教区の歩みと課題

教区司祭団役員会が出した文書「司祭と事業の関わり」と司祭大会の「宣言文」は、信徒が教会で各種の役割を果たすことについて述べている。教区では、これを大切な課題として信徒、司祭の理解と協力を得て取り組むことを考えている。

②宣教司牧活動の実態

教区の組織と種々の活動を説明。信徒会長が小教区で果たす役割の重要性、特に各県連絡協議会での役割が教区の宣教司牧に影響があると説明された。

③教区財政の現状

教区の実態を財政面から説明。毎年、教区から小教区に報告している会計報告書類を信徒が見るよう勧めた。また「教会施設整備共済基金（仮称）」設立に向けた教区の動きも報告された。

現状報告後、出席者は7グループに分かれて分かち合いをした。

この集いは出席者から喜ばれ、継続してほしいとの要望が高かったが、今後の検討課題にすることが承認された。

○各グループからの主な発表

・教区の考え方を明らかにして、司祭不在の集会祭儀、聖体奉仕者養成など、典礼に関わる研修、養成を責任を持って進めることを望んでいる。

・信徒会長の集いを継続してほしい。

・小教区では信徒の高齢化と教会に若い人が来ないことが悩みである。

・小教区では必要に迫られて、信徒は教会で役割を分担して動いている。

・建物の維持管理や将来の建て替えを考えて苦労している。

・教区本部で教会維持費納入のモデルや目安を示してほしい。

ミニニュース

○仙台白百合女子大学が開校

東北で初めての四年制カトリック大学が、今年仙台市に開校した。仙台白百合女子大学は「あたたかな心の人」を育てることを目的に、人間学部・人間発達学科と人間生活学科を設置した。入学式は4月3日に行なわれ第一期生百九十人と大学関係者が出席して開学を祝った。

○校舎増築完成

聖ウルスラ学院は仙台市木ノ下の幼稚園と小学校の増築工事を終えた。園舎増築、音楽教室の新設、とくに三十年来の念願であった小学校講堂改築は多くの人から喜ばれている。

第9回「信徒の霊性研修合宿」の案内

テーマ　「思い込み、無関心、対立、不和の中の私」
　　私を生かすみんなの信仰　みんなを生かす私の信仰
日　時　8月2日(金)PM3:00～8月4日(日)AM12:00
場　所　天城山荘　(TEL 0558-85-0625)
　　410-32 静岡県田方郡天城湯ヶ島町湯ヶ島2860
対　象　カトリック信者、求道者
会　費　22,000円（当日会場で支払い）
定　員　100名（定員になりしだい締切）
申込先　葉書で　107 東京都港区赤坂8-12-42
　　聖パウロ女子修道会「信徒の霊性」係
　　住所・年齢・性別・☎番号・所属教会を記入